

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」

(マルコによる福音書 6 : 45-52)

主イエスは弟子たちを強いて舟に乗せました。弟子たちへの教育が続いています。先々週の福音で宣教へと派遣され、先週の福音ではその旅から帰ってきてすぐに、パンの奇跡を目の当たりにした弟子たちでした。しかし、そんな彼らでも、今日の福音では恐れに取り憑かれ、再び主イエスへの信頼を失ってしまいます。

逆風で舟が進まない。肉体の疲れと共に不安が襲ってきたでしょう。どうしよう、漕いでも漕いでも進まない…そんな不安を少しでも抱き始めると、恐怖が襲ってきます。恐怖はその人から落ち着きを奪い、混乱に陥れます。

さらにそこにありえないことが起こります。男が湖上を歩いているのです。パニックに陥った彼らは、幽霊だと思って叫びました。恐怖に襲われ、パニックに陥った人間は、そこから自分の力で抜け出すことはできません。

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」

この主イエスの言葉で、風とともに彼らの恐怖は静まりました。恐怖にとらわれた人間は、「落ち着け！目を見ろ！安心しろ！」と、声をかけられてようやく、正気に戻ることができます。舟を襲った風や波のように、不安や恐怖は人を襲います。その力は強く、弟子たちのように、それまでに奇跡や恵みを経験していても、視界を一気に狭くし、恐れから抜け出せなくしてしまいます。けれども主イエスは彼らに語りかけ、目をご自分に向けさせ、そこから救い出してくださるのです。

弟子たちは強いて乗せられた舟の上で、主イエスをあらためて知りました。これまでも奇跡を目の当たりにし、今日あらためて主イエスの恵みを知った彼らですが、この後も何度も主イエスを見失ってしまいます。しかし、そのたびに、主イエスは彼らに声をかけ、ご自分へ目に向けさせます。修行や一時の熱い思いで信仰が獲得できるのではないことを教えられます。わたしたちも、主イエスが繰り返し声をかけ、目を覚ましてくださるから、ようやく信仰の歩みを続けることができます。